

シーニックバイウエイルート提案の応募結果

1. 概要

シーニックバイウエイ北海道推進協議会では、これまでにシーニックバイウエイルートとして7ルート指定、候補ルートとして4ルートを登録しています。

新たに「十勝平野・山麓ルート」及び、1箇所の候補ルートの提案がありました。

(平成21年3月6日締め切り分)

2. 提案のあったルート

(1)シーニックバイウエイルート

ルート名	十勝平野・山麓ルート
申請月日	平成21年3月6日
関係市町村	新得町、清水町、鹿追町、士幌町、上士幌町、足寄町(6町)
提案者	「十勝平野・山麓ルート」ルート代表者会議
代表者	三井 福成(鹿追町商工会)
構成団体	38団体

(2)シーニックバイウエイ候補ルート

ルート名	札幌南シーニックバイウエイ
申請月日	平成21年3月4日
関係市町村	札幌市(南区)(1市)
提案者	札幌南シーニックバイウエイルート運営代表者会議
代表者	福士 昭夫(石山地区町内会連合会)
構成団体	32団体

平成21年3月24日

ルート審査委員会

ルート審査委員会の審査結果

(1) シーニックバイウエイルート

①十勝シーニックバイウエイ 十勝平野・山麓ルート

視点※ 委員	1					2	3	4	推薦 可否	付帯意見
	景観	自然	文化	歴史	レク					
A	○	○	○	○	-	○	○	○	○	①ルート独自のブランド化戦略への強い意識②十勝エリアの他ルートとの連携の更なる強化③行政・住民・地元企業との強い連携による活動④地域の顔づくりの企画・運営・発信の更なる強化⑤今起きている現象に加え地域に潜在する物語性の発掘、が必要
B	○	○	-	○	○	○	○	○	○	①「十勝」のブランド性をさらに強化し活用するための他ルートとの柔軟な連携・協働のあり方の追求②環境モデル都市に選定された帯広を核とした環境連携③地球に優しい「十勝」というコンセプトの運営計画への組み込み、に期待
C	○	○	-	-	○	○	○	○	○	オンリーワンの素材や受け入れサービス、ユニークな情報発信と誘客活動で「顔の見える」ルート活動に期待
D	○	○	-	-	○	○	○	○	○	①「十勝シーニックバイウエイ」の最初のルートとして推薦②今後他の2つの候補が指定された際は、「十勝平野・山麓ルート」をサブネームとして使用する形が良い
E	○	○	-	-	○	○	○	○	○	特になし
F	○	-	-	-	○	○	○	○	○	特になし

※視点

- 1：優れた景観資源の有無及び地域資源の優位性
- 2：活動団体によるルート運営活動計画の主導的な推進
- 3：地域住民等と行政が一体となった地域の魅力向上の取り組み
- 4：景観の質の向上、ルートのブランド化、地域の活性化

(2) シーニックバイウェイ候補ルート

①札幌南シーニックバイウェイ

委員	1					2	推薦可否	付帯意見
	視点※ 景観	自然	文化	歴史	レク			
A	○	—	—	—	○	○	○	①ルート活動を貫く理念と哲学の明確化②人材育成体制の構築③大学と地域活動団体の包括的連携の推進、が必要
B	○	○	○	—	—	○	○	特になし
C	○	○	○	—	○	○	○	特になし
D	—	○	○	○	○	○	○	既存の観光資源、イベントに留まらない、広域的な新しい取り組みについて重点課題として検討が必要
E	○	○	—	—	○	○	○	特になし
F	○	—	○	—	—	○	○	活動の継続性が重要

※視点

1：優れた景観資源の有無及び地域資源の優位性

2：シーニックバイウェイルートへの申請に向けた今後の取り組みについて

平成21年3月24日
ルート審査委員会

ルート審査委員会 意見

■シーニックバイウエイルート

◆十勝シーニックバイウエイ 十勝平野・山麓ルートに対する意見

●景観資源・地域資源の優位性

遠景の山々に取り囲まれ、パノラマとして広がる十勝平野の農村風景は、北海道全体の雄大なイメージを象徴する我が国随一の景観資源であり、また、耕地防風林や近代土木遺産など北海道開拓の歴史や冬の十勝特有の明るく引き締まった寒さが体感できること等の貴重な地域資源にも恵まれ、十分な優位性が認められる。

他方、これら資源については、アイヌ民族を含む先達に培われた地域の歴史・文化と重ね合わせた物語の発掘や新たなストーリーづくり、それらを発信できる人材育成等を通じて、その存在感、意味づけを強化することが重要である。

●地域の魅力向上、ルートのブランド化

「十勝平野・山麓ルート」としての独自性を磨いていくためには、「食」・「癒し」・「環境」などをテーマに、豊かな自然環境を背景とした農業・酪農等の営みが生み出す本物の豊かさ＝「自然資本」に勝る十勝のライフスタイル、クオリティ・オブ・ライフが実感できる取組を推進していくことが重要である。その推進にあたっては、女性・若年層も含めた地域住民等の幅広い連携・参加を求めていくことが望まれる。

また、「十勝シーニックバイウエイ」のブランド力を強化し、その活用を図るためには、来る道東自動車道の開通を見据えつつ、道東のゲートウェイとして、十勝エリアの他ルートとの連携・協働を先導しながら、地域や活動団体が有する物的・人的資源やノウハウを最大限に活かしたコミュニティビジネスの創出や、国内外を対象とした積極的なプロモーション活動を進めていくことが期待される。

■シーニックバイウェイ候補ルート

◆候補ルート全体に対する意見

ルート活動に参加するあらゆる団体・個人が、シーニックバイウェイについての理解を深め、ルートとしての理念・目標・活動指針の明確化とその共有化に向け、引き続き取り組むこと。

あわせて、運営体制の強化、人材発掘・育成、地域資源の発掘・活用などの方策、ルート活動団体を中心としながら地域住民、各種団体、行政、地域産業なども含めた幅広い連携・協働のあり方の検討、それらを活用した取組を推進していくことが重要である。

◆札幌南シーニックバイウェイに対する意見

道都札幌の都市性とその周縁部に広がる原始の自然が調和したアーバンツーリズム(都市観光)を特長とするルートとして、極めて高い可能性が認められる。これは、地方部における既存の指定ルートが、その雄大な自然景観を主要資源としてきたこととは本質的に性格が異なり、シーニックルートの新たなモデルとしても興味深く評価される。

他方、南区という行政区域・地域概念に留まることなく、地域の生活者・札幌市民の視点のみならず来訪者の視点を重視しながら、本ルート全体の理念・イメージを明確にすること、その理念・イメージに対応したルート範囲の再設定、そして、ブランドイメージを喚起しうるルート名称への変更が必要である。

また、地域内の既存活動の継続に加えて、「都市とその周縁部における森林など自然環境との共生」、「創造性を育む環境都市づくり」などをテーマに、ルート活動としての独自・新規の取組を進めること、これら取組を通じて本ルートに対する活動参加者・市民の意識の共有を幅広く図ることが必要である。